

あの日見た Adobe CC の名前を僕達はまだ知らない。

文 編集部 いなにわうどん

ご入学おめでとうございます。大学進学に際してパソコンを新たに購入される方も多いのではないでしょうか*1。しかしながら、折角の新品 PC も初期状態のままでは無用の長物。SSD とお財布の許す限りソフトウェアをじゅんじゅんインストールして、より豊かで快適な PC ライフを実現しましょう。

フリーソフトに関しては、「Windows PC を便利にしよう」の題で Koitama くんが記事を書いてくれたため*2、私からは **Adobe Creative Cloud (Adobe CC)** というアプリケーションのサブスクリプションサービスを布教したいと思います。

1 Adobe CC とは？

Adobe*3が開発するプロプライエタリソフトウェア*4を、サブスクリプション形式で利用可能にするサービスです。DTP*5や動画編集に特化したソフトウェア群が提供されており、デジタルで何かを制作したい人には必携ともいえます。

Adobe CC は本来契約すると年間 74,976 円、月額で 6,248 円もする高額なソフトウェアですが、学生・教職員版は税込 2,178 円／月（2 年目以降は 3,278 円／月）と比較的安価で提供されています*6。モラトリアムを謳歌する我々学生は、1 日僅か 72 円、ガリガリ君一本程度の値段でのアドビを利用することが可能なのです……！

本記事では、Adobe CC で利用可能なソフトウェアのうち、代表的なものをいくつかをご紹介します。

2 Photoshop

ラスター形式*7の画像編集ソフトウェアです。写真の編集から画像合成、バナー制作に至るまで、幅広く利用されています。「フォトショで修正」といった用語は、PC やグラフィックス関連に明るくない方でも一度は耳にしたことがあるのではないでしょうか。

*1 Twitter 界隈では「大学生は MacBook を買うべきか否か」の激論が日々繰り広げられています。

*2 今年度の WORD 引越し準備号を参照。

*3 Adobe といえば、PDF (Portable Document Format) や今は亡き Flash を開発したことでも有名な企業です（厳密には Flash は Macromedia によって開発された技術ですが、Adobe が Macromedia を買収したことから Adobe Flash に名を変えて開発されることになりました）。

*4 「専有の」「独自の」を意味するプロプライエタリ (proprietary) の言葉の通り、プロプライエタリソフトウェアは開発者が技術や情報を独占的に保持しているソフトウェアを指します。Adobe 製品に加え、Windows や Microsoft Office, MacOS 等がプロプライエタリソフトウェアの代表例として挙げられます。

*5 DeskTop Publishing の略。PC 上で文書や印刷物を制作することを指します。

*6 認証には大学から配布される ac.jp ドメインのアドレスを利用します。

*7 写真やイラストは一般に、ピクセルの集合であるラスター（ピットマップ）形式で表現されます。一方で、印刷物やフォント、図版等はベクター形式での表現が適しています。ベクター形式には解像度の概念が存在せず、拡大してもジャギーが発生しないことから Web での採用も進んでいます。

あの日見た Adobe CC の名前を僕達はまだ知らない。

百聞は一見に如かずといいますので、一つ Photoshop による画像合成の例を示したいと思います（図 1）。自宅で撮影したぬいぐるみの写真から被写体のみを切り抜いて背景と合成し、色調補正やフィルタを加えています。



図 1 Photoshop を用いた画像合成

3 Illustrator

ベクター形式での画像編集（ドローイング）ソフトウェアです。ベジェ曲線で表現されるパスを操作して、イラストや図版を制作します。

Illustrator に特徴的な機能の一つに、「アピアランス」という機能があります。この機能を利用することで、単一のオブジェクトに対して複数の装飾を加えることが可能になります（図 2）。



図 2 アピアランスによる装飾

4 InDesign

「インデザ」が略称の DTP ソフトウェアです。平たく言えば「Microsoft Word の各機能を超強力にしてプロ品質での印刷物を制作できるようにしたソフトウェア」になります。世の中の商用出版物の 9 割以上は InDesign で制作されているといっても過言ではありません。

せん*⁸。

Illustrator ではアートボード毎での作業が中心になるのに対して、InDesign ではマスター・ページ⁹や流し込みといった機能を利用して複数ページ、長文の文書を難なく作成できる点が特徴です。また、Illustrator よりも高度な組版機能を備えており、ルビ・割注・行取り・表組を始めとする機能も実現されます。

InDesign では、フレームと呼ばれる入れ物にテキストやグラフィックスを挿入する形でレイアウトを行います。原稿用紙のような見た目をしたフレームグリッドが印象的です(図 3)。

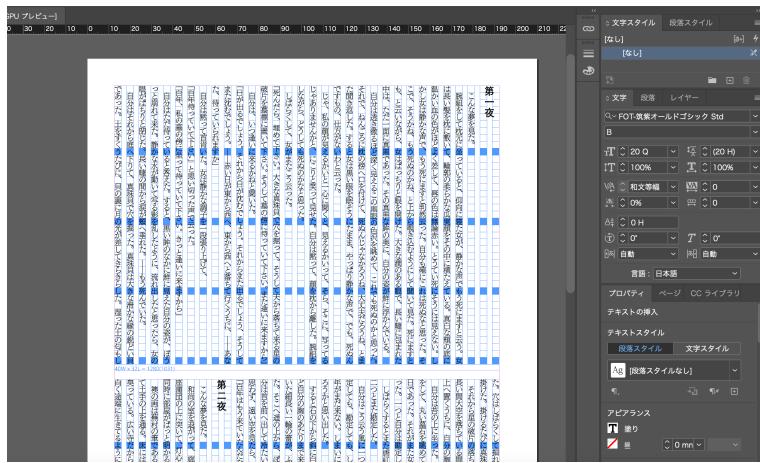


図3 InDesignによる組版作業

5 Adobe Fonts

Adobe が提供するクラウドフォントサービスです。Adobe CC を契約している限り、2万種以上のフォントを追加料金なしで利用することができます^{*10}。近年では和文フォントも充実しており、フォントワークス、モリサワ、視覚デザイン研究所といった有名どころのフォントが提供されています^{*11}（図 4）。言わずもがな欧文も優秀で、Futura も Garamond も Trajan もあります。Helvetica はありませんが、Neue Haas Grotesk^{*12}があります。

Adobe Fonts 経由で導入可能なフォントの一つに、DIN という著名な書体があります。筑波大の掲げるスローガンである IMAGINE THE FUTURE. にも、こちらの DIN をベースとしたロゴが採用されています（図 5）。

*8ただし WORD は LATEX で組版されています。理系出版物では数式等の複雑な表現が頻出することから、LATEX や専門のソフトウェアを利用することが多く、またユーザーも CLI から実行可能な組版ツールを好む傾向があるようです。

*⁹複数のページに同一レイアウトを適用する機能。

*10 さらに嬉しい点として、これらのフォントを Web フォントとして無制限に利用できる点が挙げられます。

*11 これらのフォントは個別に購入すると 1 書体あたり数万円と非常に値が張るため、Adobe Fonts だけで十分にペイドで使える考え方にも可能です。

*12Helvetica の元になつた活字書体をデジタルフォント化したもの

あの日見た Adobe CC の名前を僕達はまだ知らない。

DNP 秀英初号明朝 Std

山路を登りながら、こう考えた

AB-キリギリス Regular

山路を登りながら、こう考えた

貂明朝

山路を登りながら、こう考えた

A-OTF ゴシック MB101 Pr6N L

山路を登りながら、こう考えた

砧 丸明オールド StdN R

山路を登りながら、こう考えた

図 4 Adobe Fonts を介して利用可能な和文フォント（抜粋）。かわいい～～

IMAGINE THE FUTURE. DIN 2014 Extra Bold

図 5 DIN による組版例

6 代替ソフトウェアの紹介

とはいっても、毎月 3,000 円^{*13}を払い続けるのは学生には痛いところ……。OSS^{*14}ないし安価に入手可能で、Adobe 製品の代替としても機能するソフトウェアを併せてご紹介します。

6.1 GIMP (GNU Image Manipulation Program)

GNU General Public License (GPL ライセンス) の下で開発されている、高機能な画像編集ソフトウェアです。ソフトウェア単体でも Photoshop に匹敵する機能を備えるほか、Script-Fu (Scheme) や Python を用いて拡張機能を実装可能で、有志によって様々なスクリプトが公開されています。Layer Effects^{*15}というプラグインをよく利用していました。

6.2 Inkspace

ベクター画像を扱うドローイングソフトウェアです。インターフェースに癖がありますが、SVG (Scalable Vector Graphics) に加え PDF, EPS 等の出力に対応しており、ちょっとした図版の制作等には活用できるかと思います。

*13 俗稱・Adobe 稅

*14 オープンソースソフトウェア。ソースコードが公開されており、利用・改変・再配布等に制約のないソフトウェアとして定義されています。対義語：プロプライエタリソフトウェア

*15 <https://nw.myds.me/gimp/layereffects-gimp/>

6.3 Affinity Publisher

ヨーロッパの Serif という企業が開発する、Affinity シリーズの製品です^{*16}。日本語組版に弱い（縦組みが出来ない）といった弱点こそあるものの、一般に InDesign に比肩する表現力を持つとされています。

10 年前に Creative Cloud をリリースして以来、Adobe のソフトウェアはサブスクリプション形式へと舵を切りました。一方で Affinity は比較的安価かつ買い切りで利用できることから、近年急速に注目を集めています。

7 むすびにかえて

本稿で紹介した以外にも、Premiere, After Effects, XD, Acrobat 等の有用なソフトウェアが多数提供されており、その殆どがデファクトスタンダードとしての地位を確立しています。一方で Adobe 製品は高価でなかなか手が出しにくいのもまた事実です。

現在では、オープンソースでもソフトウェアが盛んに開発されているほか、ちょっとした処理であれば Pillow^{*17}や OpenCV, FreeType^{*18}等で処理する手もあります^{*19}。是非、ご自分にあったソフトウェアを探してみてください。

*16 Affinity には Photo, Designer, Publisher が存在しており、Adobe 製品をかなり意識したラインナップとなっています。

*17 Python 上での画像処理機能を提供するライブラリ。NumPy と組み合わせて利用するケースが多い。

*18 フォントのパース・ラスタライズ等を実装するオープンソースのライブラリ。

*19 個人的には芸専やメ創が Adobe 大好き学類で、逆に情報科学類のみなさんは CLI ベースでの作業を好む傾向にある印象を受けます。